

【議事録】第1回大津町介護保険事業計画等策定委員会

日時：令和2年8月24日（月）13:00～14:00

場所：大津町役場 仮庁舎2階大会議室

参加：全委員（欠席委員なし）

《開会》

1. 委嘱状交付

- 委員（18人）を代表して三宮美香委員（大津町議会）に交付。

2. 町長挨拶

- 第7期計画も最終年度となり、来年度から3年間の「第8期計画」策定に向けて準備する時期となった。
- 第7期では保険料を改定し、高齢者の皆さまに負担をかけているが、3年前に比べると「デイサービス」などサービスの供給が充実してきているところ。
- 大津町の高齢者人口は今後も増え続ける見込みであり、介護保険制度が担う役割がますます重要になってくると思われる。
- 町が掲げる基本理念「高齢者が生きがいをもって、健康で安心して暮らすことができるまち」実現のため、保険料負担とサービス充実のバランスを取りながら、第8期計画が実行性の高い計画になるよう、皆さまに検討いただきたい。

3. 委員長・副委員長の選出

- 「事務局一任」の声を受け、委員長に樽美光一委員（郡市医師会）、副委員長に松木雄一郎委員（大津町社会福祉協議会）を提案、了承。

4. 委員長挨拶

- 世界中で戦っている新型コロナだが、熊本県下でも新型コロナ感染者が増えてきており、寒くなると益々危険性が高まるので、ソーシャルディスタンスを確保するなど、個人個人でも感染に対してご注意ください。
- 今回、令和3年度から3年間の「第8期計画」を皆さんと検討していくことになり、高齢化が進む中で、高齢者に自立した生活を維持いただくために、高齢者の実態やニーズの把握、地域間の比較や各種協議会での会議など、様々な角度から地域の課題等を抽出し、地域特性の把握を行う必要があります。

○各委員におかれましては、医療・介護・福祉などの各団体の立場から、忌憚のない御意見・御協力をお願いします。

5. 諮問

●町長から樽美委員長に諮問書の交付。

※諮問書交付後、町長退室。

※議題に入る前に、本委員会の審議録（内容等）を、ホームページに掲載し公開する方向性の確認を行い、了承。

6. 議題

(1) 本会議と高齢者福祉計画及び介護保険事業計画について

●事務局より説明。

- ・今回の会議目的は、委員の皆さまとの「情報共有」が中心。
- ・全部で「4回」委員会を開催、事務局案を審議いただき、令和3年3月に答申をいただく。
- ・老人福祉計画と介護保険事業計画の2つの計画を、一体として策定。
- ・各計画の目標と実施計画、3年間の保険料額を決めるもの。
- ・（「介護保険制度の経過」「保険者に求められる機能の変化」等の説明）

質疑・意見等

※特になし

(2) 地域包括ケア見える化システム等を活用した地区分析結果

●事務局より説明。

- ・町の人口は増加するが、その中心は高齢者で、生産年齢人口は横ばいと予測。
- ・高齢者人口は、令和11年度には9,000人を超える見込み。
- ・認知症高齢者は、平成27年から令和27年（30年間）で、約1,000人増加する見込み。
- ・（「要介護認定者数」「介護給付費の推移」等の説明）

質疑・意見等

※特になし

(3) 日常生活圏域ニーズ調査について

●計画策定支援業者より説明。

- ・介護保険事業計画等を策定する際に行う調査。

- ・調査対象は、比較的元気な高齢者が中心となる。
- ・要介護認定を受けていない方が、地域でどのような生活をしているか把握するためのもの。
- ・(「調査結果」等の説明)

質疑・意見等

宮野鼻委員：ボランティア養成講座に参加したい人が多くいるとあるが、有償ボランティアの養成講座か。

事務局：有償ボランティア養成ではなく、介護予防事業に無償で協力いただけるボランティアの養成講座になります。

山内委員：「家族や友人・知人以外の相談相手」という問いに対し、「そのような人はいない」という回答があり、深刻な問題と感じる。解消するには何をしないとイケないか。幸福度の設問で、「あなたは、現在どの程度幸せですか」という問いに対し、週1回社会参加したり、地域活動のお世話役をしたりしている人が、していない人より幸福度が高いとある。地域の実情により難しい場合もあると思うが、退職した人などをボランティア養成・育成等に繋げていくなどして欲しい。

山内委員：「高齢者福祉や介護保険に関連する事業をご存知か」という問いで、「ホームヘルパーが生活支援を行うサービス」を知っている人がかなり多いが、専門職が生活支援を行うということが染みついているのか。

事務局：包括支援センターの「総合事業」の中で、ホームヘルパーが掃除や洗濯など、身体を直接ケアしない生活支援のみのサービスも行っています。身体に触れるようなサービスの場合、総合事業の「現行相当」という形で、指定事業所をお願いしています。

高齢者同士の協力・支援として、シルバー人材センターにも協力いただき、「ワンコインサービス」等も実施しています。

(4) 第7期計画の評価【重点事業の評価】

●事務局より説明。

- ・(主な「重点事業」について説明)

質疑・意見等

※特になし

7. その他

①今後のスケジュール

- ・次回の策定委員会では、今後、町として「どのような事業を重点的に取り組むか」「大津町独特の課題」などを、具体的に提案させていただく。
- ・第3回の策定委員会では、保険料について具体的な数字を提示する。重点事業の継続審議と共に、保険料についても意見をいただきたい。
- ・第4回では、年末年始に実施のパブリックコメントの結果反映と、最終（案）に対する答申をいただきたい。
- ・新型コロナウイルスの流行次第では、文書でのやり取りが増えるかもしれない。

質疑・意見等

山内委員：地域支援事業は、地域包括ケアシステム構築の1つの手段。介護や医療等の「連動」が上手くいくような計画にして欲しい。地域共生社会の実現を見据えて、計画策定に取り組んで欲しい。

《閉会》